

亀姫宛徳川家康自筆書状

歴史を語るこの「いっぴん」  
博物館の収蔵庫から、  
4

忍東照宮所有

徳川家康は75年の生涯で膨大な数の文書を発給しました。その数は分かっているだけで3千600点を超えるとされます。しかし、その多くは書記である右筆が書いたもので、自筆となると数が限られ、なかでも書状の類は二十数点といわれます。写真の古文書はその中の一通で、長女の亀姫に宛てたものです。左上に書かれた宛名の「おはた」が亀姫のこと、その下の大納言が家康です。亀姫が嫁いだ三河国の武将奥平信昌は、天正18年（1590）8月以後に

上野国甘楽郡小幡（群馬県甘楽町）の領主となり、夫人である亀姫は「小幡殿」と呼ばれました。家康も文禄5年（1596）5月に内大臣になるので、手紙はその間に書かれたものです。内容を意識すると、「手紙が届きました。大変うれしく拝見しました。こちららは和議が整ったので、近いうちに凱陣となるでしょう。安心するように。繰り返しますが、手紙をうれし



亀姫宛徳川家康自筆書状

く読みました。」となります。文中の和議が整い凱陣するという文言から、家康はどこかに出陣中で、亀姫は父へ陣中見舞いの手紙を送ったことが分かります。

天正18年から文禄5年までの間に家康が長期の出陣をした戦は、天正19年に東北で起こった九戸政実の乱が該当します。家康は7月19日に江戸をたち、奥州岩手沢（宮城県大崎市）に滞在し、10月29日に戻りました。九戸政実は9月5日に降伏したので、手紙の執筆時期はその頃から家康が奥州を出発するまでに絞られます。

亀姫の四男の松平忠明は奥平松平家の初代当主となり、9代目の松平忠堯が文政6年（1823）に忍藩主となりました。このため、松平家が勧請した忍東照宮に家康の自筆の手紙が伝わりました。家康は生前に7回忍城を訪れ、死去後に霊柩が久能山から日光に移される際に、忍に一泊しました。今年家康が亡くなって400年になります。この古文書は、忍と家康の所縁の深さを伝えてくれる資料ともいえます。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

こぜに 行く! with フラベス ちゃん が 福祉施設編

ぎょうだ 行田サポートひだまり (運営:合同会社シティーサポート)

行田サポートひだまりは、小学1年生から高校3年生を対象にした放課後等デイサービスの施設だよ。

現在14人が登録していて、友達同士で遊んだり、職員にサポートしてもらいながら宿題をしたりして放課後を一緒に過ごしているんだ。学校や学年に関係なく、みんなとっても仲良しなんだって。また、月2回土曜日には S S T (社会生活技能訓練)の授業が行われているよ。ロールプレイや発表などを通じて、楽しみながらコミュニケーション力をはじめとした生活に必要な能力をお互いに高めあっているんだ。

仲間と一緒に成長できる行田サポートひだまり。「学習や遊びを通じて自分に自信をつけてもらいたい」って職員の皆さんは話してくれたよ。気になった方は、見学や相談をしてみてくださいね。

【住所】持田1-4-16 【電話番号】556-1644



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

6月11日・12日の2日間、古代蓮の里東側の田んぼで田植え体験参加者やボランティアなどが参加し「田んぼアート」の田植えが行われました。

今年は誕生30周年を迎えた大人気ゲームシリーズ「ドラゴンクエスト」の第1作のパッケージをモチーフにしたデザインで、過去最多の9種類の苗を使用して描きます。参加者らは、泥んこになりながらも田んぼに浮かび上がる壮大な絵に思いをはせ、丁寧に苗を植えていました。

市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい 植物油インキ

市報ぎょうだは 再生紙を 使用しています